

日交研シリーズ A-786

平成 31 年度共同研究プロジェクト

「交通インフラに対する民間の役割とインフラの持続可能性:公と民の役割の再検討研究プロジェクト」

刊行：2020 年 8 月

インフラと自治体間競争に対する民間部門の役割
The Role of the Private Sector on Sustainable Transport infrastructure
: the role of the public and the private sector

主査：加藤 一誠（慶應義塾大学商学部）

Kazusei Kato

要 旨

本報告書は 4 章から構成されている。

第 1 章は、アウトストラーデ・イタリア社等が運営する高速道路事業のコンセッション契約への事業の追加に焦点を当てている。欧州委員会が既存の道路ネットワークの運営者への事業追加とそのためのコンセッション期間の延長やコンセッション間の内部補助を認めた背景、そして、同委員会による SGEI(Services of general economic interest)フレームワークにもとづく、国家補助 (State aid) という観点からの判定プロセスをまとめている。

第 2 章は、農林水産省が策定した「卸売市場整備基本方針」にもとづく市場再編の影響を分析している。卸売青果市場の需要関数からは、市場再編による価格下落と取扱価額の減少が認められ、市場規模が大きいほど平均価格は低下することが明らかになった。貨物駅の再編の影響もあり、市場からの時間距離と取扱価額には負の関係が認められ、青果物輸送における鉄道貨物の重要性がうかがえる結果となった。

第 3 章は、インバウンド旅客の誘因を分析し、2017 年から開始された「訪日誘客支援空港」の効果を試算している。まず、インバウンド旅客の誘因には、旅客の出発国の GDP の増加、距離、ビザの緩和や免除および都道府県の観光費があることを直近のデータから確認した。そして、「訪日誘客支援空港」に指定された空港におけるインバウンド旅客の伸びは有意に大きいことも明らかになった。

第 4 章は同一都市圏内における空港間競争のモデルを構築し、都心空港は空港使用料を引き下げないが、旅客の機会費用を抑制するためにフルサービス航空を誘致することを示している。くわえて、アメリカでは近隣に巨大空港があっても、航空会社は小型機を利用して高いイールドを維持している。そこで、日本の時刻表データを用いた分析から、機体規模の経済性を確認し、同時に小型機就航路線ほどイールドが高いことを明らかにした。

キーワード：道路コンセッション、SGEI フレームワーク、公設卸売市場、再編計画、訪日旅客、「訪日誘客支援空港」、空港間競争、航空会社の機材選択

Keywords : highway concession、SGEI Framework、Revitalization Plan of Public Wholesale Market、inbound tourist、Airport Development Program for Supporting Inbound Tourism、airport competition、airline's choice of aircraft size